

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（9月分）

国際地域学部 グローバルアプローチ 3年
山下 慎
留学先：台湾 元智大学

・始めに

福井大学から元智大学への交換留学生は私が第1号です。期間は1年間（2学期間）です。昨夏、台湾にはサマープログラムで訪れて以来で、人生で2度目の訪問です。台湾やその文化は日本に馴染みのあるものとなっていますし、インターネットには台湾の情報も豊富にありますね。私の気づいた範囲で、日本と違う部分や似た部分を、そして自分が感じたことを書けていけたらと思います。

・元智大学について

台湾桃園市にある私立大学で学部多く、学部をまたいで履修ができます。この大学の特筆することとしては、AACSB（Association to Advance Collegiate Schools of Business）という世界でも最高水準のビジネス教育を提供する教育機関の認証を持っており、豊富な英語開講科目を持っており、世界中から（例えばスイスから、ニカラグアまで）学生が来ていて、とても国際的な環境です。私の所属するEBBA（English Bachelor of Business Administration）では授業は英語で進むため、中国語ができなくても問題なく履修できます。また、こちらの大学生や大学職員の多くは英語を話せるため、その点にも救われています。



写真1： 大学図書館内部

(引用：<http://www.cm.yzu.edu.tw/EN/Page/C2.aspx?ItemId=300>)

・キャンパス、立地等

まず福井大学（文京キャンパス）よりも敷地が大きく、学生数も多いです。これからも少しずつ紹介していこうと思います。まず、生活において一番大切な食事についてです。まずキャンパス内にはフードコートが3つあり、その他軽食屋さんなどが点在しています。フードコートのお店の数も多く、日本風の料理を提供するお店もあります。値段もほとんどが100元ぐらい（日本円で360円程度）。量もそこそこあるので、十分です。また、ファミリーマートも学内に2点あり、日本のお菓子やインスタント味噌汁なども買えます。

もちろん学外にも、それはもうたくさん飲食店があるので、選択肢は豊富です。1か月生活してみて、ご飯の心配はないな、という印象です。



写真2：学食 鉄板焼き屋さんの料理。

「チキンステーキプレート」

このボリュームで110元（約400円！）

・こちらに来て感じたことなど

授業が始まってからすぐのタイミングで履修登録に関して少し交渉をするシチュエーションに遭遇しました。元智大学は履修登録のタイミングが複数回あり、（交換）留学生が履修登録をするタイミングはその最終フェーズで、受けようと思った授業がすでに満員ということがしばしばあります。正規生ならば来年選ぶという選択をとれますが、交換留学生はそうはいきません。

わたしもその例に漏れず、取ろうと思っていた留学生向けの中国語のコースが定員のため、自分の手では履修登録できないという事態に陥りました。そこでこちらのインターナショナル・プログラム部署を尋ねて、交換生という事情と台湾留学の目的の一つが外国語の習得ということをお話しました。その後、授業の管轄が部署で異なるため、関係部署を行ったり来たり、行く先々で事情を説明…。そして、最終的にはオーケーをいただけて、取りたい授業を一通り選択できました。

その対応の中で感じた事を3点、挙げさせていただきます。

1つ目に、これがもしも欧米だったら「定員いっぱいだから無理」と一蹴されてたかもしれないということ。欧米はなにかと決まりなどにはドライに対応すると聞きますし、その点は救われました。

2つ目に、海外に行くときに英語が話せることは本当に大切だということ。もちろん現地語を使えることが一番ではありますが、そんな一朝一夕で習得できるものではないですし、国が変わるごとに覚えるというのも非現実的です。そういう時に英語は多くの場所で使えて、自分を助けてくれますし、実際、今回の履修関係のトラブルで担当の人との交渉も英語でやりました。その経験から、英語を使えることの重要性を改めて感じました。

3つ目に、何事もまずは話し合う、事情を論理的に話してみるが大切だということ。履修登録の前のオリエンテーションのときに、「もしも定員に達してても、履修登録できることもあるから、一度相談してほしい」と担当課から言われていました。だからOKがでたのかもしれませんが、そもそも話し合おうせずに諦めていたらそれより先の可能性はなかったでしょう。積極性は本当に大切です。

- ・終わりに

これ以外にも感じたことはありますが、今回はここまで。ちょっと情報過多ですね。まとめとしては、

- ・海外に行くとも英語の重要性を改めて感じさせられるということ
- ・自分から何がしたいのかを伝えることの大切さ

以上で9月分の月例報告書を終わります。